

# あさひ便り

## 残暑お見舞い申し上げます

あさひ代表 島 武代

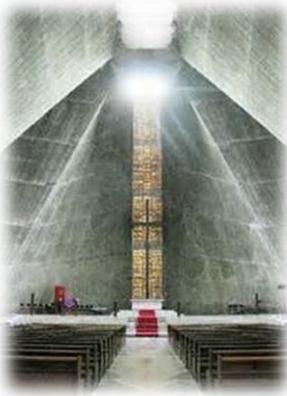
旧盆がすぎ、また台風の接近もあり暑さが、やわらいだ今日この頃です。  
山梨のあさひの地は、暑いあついとはいっても、木陰にはいると涼風にふかれ、室内も扇風機なしですごしました

皆様のお住まいは、いかがですか。熱中症で運ばれたとか、ゲリラ豪雨、竜巻等のニュースに異常気象、温暖化を痛感いたします。

あさひも陽射しは強烈で、外作業は大変きびしいものです。今年も就業時間を夏時間に変更し、乗り切りましたが、鶏にとっては、大変厳しく、給水は冷水を絶やさず、よしずを張り陽射しをさえぎる、鶏に直接放水する、また夏野菜・青草を給餌する等心がけましたが、それでも産卵が2割落ちました。その上、あさひの地は、観光地ですので、需要が倍増し、日頃のお客様に大変ご迷惑をおかけしてしまいます。



東京カテドラル聖マリア大聖堂



大聖堂内部

この夏、事故がおこりました。

8月1日、寮生の小林さんは休日に一人で（いつも一人行動です）蕪崎市の繁華街まで出かけ、夕闇の中、駅へ向かう方向を見失い、車にぶつかり左足（ひざ下）を骨折しました。（1か月の入院予定）幸い頭や体は打たずにすみしました。病院から連絡を受けた時は、奈落に沈んだ気分になりましたが、命に別状なく、いつもの小林君の笑顔と絶え間ないおしゃべりに、またリハビリに励んでいる様子に面会者が和まされています。

事故はいつ、どんな状況でおこるかわかりません。間一髪で災いを逃れることがあり、後日、冷静になって考えると、恐ろしくなることがあります。このようなことが二度と起こらないよう、スタッフ、寮生とともに話し合いを重ねていきます。

社会に目を向けますと、最近の政治の動きが平和をおびやかす心配を感じさせます。カトリック教会は戦後70年メッセージを発表しました。

**憲法の不戦の理念、私たちの宝**

**平和の実現へ、世界の人々と協力**

この精神の内容をカトリック東京大司教岡田神父のお話から抜粋します  
どんな宗教も平和を説き、平和のために働くことを進めています。

キリスト教の教えも平和を大切にします。「平和のために働く人は幸い。その人は神の子と

言われる」

悪に対して悪をもってする、暴力に対して暴力をもってするのではなくて、平和は悪が善によって打ち負かされるときのみ、もたらされる。辛抱強いたたかひの成果であり、非暴力による対話によってこそ平和を築くことができます。

憲法9条はこの理想を述べる私たちの宝だと思います。

対話や交渉によって戦争や武力衝突を避ける希望を失ってはならないです。



## 通って道・・・

あさひ福祉作業所 元職員 沼田 進

私があさひで働いていたのは、今から丁度30年前の2年間でした。あさひが設立10周年を迎えた後で、島さんご夫妻が設立時の激動を乗り越えられて、経営的には少し落ち着きだした頃でした。私は、主に養鶏を担当しておりましたが、飼育数が3000羽体制になり、日産1800個の卵が採れた事を皆で喜び合った事が嬉しい記憶として残っています。

そして、運び屋さんに卸す卵にも余裕ができましたので、車に卵を積み込み、甲府方面に「引き売り」にも行きました。助手席には、彼らにも輪番制で乗ってもらいました。彼らにとっても、日常とは違う体験がしてもらえたと思います。「ヨード卵光」ではありませんが、「あさひの卵」というブランド名を付けていました。(併せて、「オネストハム」と言うブランド名でハムの販売もしていました。)

島さんご夫妻も寛大だったと思います。20歳代の私に好きな事をさせて下さったと、後になって気付きました。あさひで新規開拓的な事をさせてもらえた事が、後の私の仕事の糧になりました。

あさひを去った後、私は東京の実家に戻り、建設会社に就職しました。あさひに行った事もあさひから戻った事も全て自己責任です。認めざるを得ませんでした。失ったものは大きかったです。しかし、時間の経過の中で、自分の心癖を見返る事が出来るようになりました。時間の経過の中で、まだまだですが少しずつ心の器を大きく出来たと思います。

就職した建設会社では、あさひでの引き売りの経験も活かし、営業職で愚直に顧客の新規開拓が出来た事が私の誇りです。

失ったものは大きかったです。逆に得られたものも沢山あったと、50歳半ばを過ぎて今感じます。・・・気がつく、20歳代の血気盛んだった時、体力が一番あった時に、あさひで働いた事を武勇伝の如く人に語る自分がいます。

そして、今から3年前に私はあさひを訪れました。あさひを去って以来25年振りの訪問

でした。所々に昔の面影が残っていたもののすっかり変わっていて時の流れを痛感しました。しかし、鶏糞の臭い・あさひ独特の臭いを嗅いだ時には、本当に懐かしかったです。武代さんから「沼田さんはホント変わらないわネ・・・勿論、良い意味でヨ。」とクスッと笑ってもらい、緊張した私の心も和みました。

現在、私は東京都品川区内で高齢者福祉（介護士）の仕事をしています。決して人に自慢できるような人生ではありませんが、通って道、現在の自分があります。自分の個性を輝かせて、足許の小さな事から皆さんに喜んでもらえるような事を実践してゆきたいです。



## 東日本大震災・カリタス大船渡での ボランティア体験

シスター吉澤

— 本当に怒り狂って、揺れる床をドンドン踏みつけながら「てア〜げア〜にしろ、この腐れ金神、いつまでほろげ」と大きな声で怒鳴りました。

ご自身が振り返って、「金神」が暴れまわっているのので、私はその頭、つまり地面(床)を蹴飛ばしながら、「腐れ（人をののしる言葉）金神、てア〜げア〜にしろ」と怒鳴りまくっていたわけです。— 大船渡で被災・温厚で年配の医師のその日のことば —

2011年3月11日世界中に報じられた“想定外”のできごと・東日本大震災の一年余り後、2012年4月8日に大船渡に向かいました。震災直後、気仙沼の避難所で生活する悲惨さに打ちのめされた方々の奉仕に続く2回目の体験でした。JRで神戸から一関迄は順調でしたが、日に二便しかない大船渡行きのバスを待つこと6時間余り、夜到着した大船渡の深い闇（復旧の遅れから外灯が殆どない）に驚きました。

「陸の孤島」と住む人々が呼ぶ大船渡は、亡くなった方340人、行方不明者80人の人的被害と5,532世帯が建物被害に遭遇、公的土地（学校、公園等）を利用した37ヶ所に1,801戸の仮設住宅が設けられ、困難な生活が始まっていました。隣の陸前高田市は、1,556人が死亡、218人が不明、殆どが全壊で3,368世帯が建物被害を受け、53ヶ所に設置された仮設2,148戸と見做し仮設での不十分な生活に喘ぐ人々との出会いでした。一年余りを経過していてもどちらを見ても瓦礫だらけでした。夕暮れは寂しく、恐ろしく感じるほど灯りが少なかったです。食品は勿論生活用品を扱う店舗も大船渡市に2店舗、陸前高田市は0という状態の中で暮らす人々の予想外に明るい様子、ことばと表情の不調和にわたしは戸惑いを感じました。“大丈夫!” “元気だ” “世界中からの応援を頂いてなんと有り難い!” “いきている!” など、と応じる人々の姿は不思議にみえました。

「東北の湘南」と呼ばれる通り、降雪日は数える位ですが、冷たさ・寒さはやはり厳しいものでした。人々の体験・親しい人や生活基盤の喪失、哀しみ、苦しみは皆異なりそれを語るには時間が必要でしたし、私にはそのこころや苦労がわかる筈がなく、ただ人々の側に居させて頂き、共に動き、考え、祈る事だけが出来ることでした。

ある日、生業の術のすべてと家、家族をも失ったホタテの養殖者が来られ、ボツボツ話して下さった最後に、“一俺があん時死ねば。。。保険金がおりのだべ！それで何とか家族が食べべー、あん時に。。。！”とか。“「。。。あん時、のまれていたらなあー！”とか“毎日することがねえーし。。。！”など、法外で唐突な出来事に呑み込まれ、静かで、うつろな姿で生きる人々の姿は、手伝わせて頂く者にも重く、苦しいものとなっていました。キリスト者として「希望に招かれている」のに、この「希望」を分かち合うことのできない歯がゆさに苦しみました。それは今日の信仰課題の一つとなっています。

仮設では、隣の灯りや生活が壁越しに伝わり、玄関らしい入口も適当な空間、庭もなく、商店も遠く万事に事欠いていました。校庭や公園に設置された仮設の為、発育盛りの子供たちは必要な遊び、運動する場（学校でも校庭無）もないばかりか、すべてが十分な子供のように振る舞う姿は、明るい表情で挨拶を交わし“大丈夫！”と言うのです。出会いの時、何かのサインを見つけながらの支援でした。必需品、実際的な支援・被災住居の片付け、荷物の整理、漁業者の支援、働き手のない施設への協働、健康体操、手芸教室、小さな映画館、子どもたちの学習、図書館、遊び支援、仮設居住者（買い物、レクリエーション、物づくり、大工 etc）支援、在宅訪問、学校行事支援等、すなわち生活全般に亘る“なんでも屋さん”がカリタス大船渡ベースの活動で、“困ったときはカリタスさんへ。”と熱い信頼と期待をかけて頂き、身にあまる光栄に預かりました。多くのボランティアの方々のご尽力を尽くした寛大な奉仕のおかげでした。そして、それは今も続いています。

会からの派遣・一年契約をオーバーした奉仕を終える 2013 年になって「みなさんの元気さ、明るさで私は支えられ、勇気、力を頂いていたこと」を伝えると、多くの方が「本当は、さみしくて、辛くて、哀しくて。。。」と語られました。昂揚していた緊張感、闘争心が泥のような疲労の中に深い絶望と底なしの喪失感が人々を襲っていました。2 年以上も頑張り抜いた人々が、家族との死別、喪失などの哀しさ、辛さ、出来事の実感など“本当の自分を表現する涙や語り、興奮など”を其の儘に表現できるようになってこられたことに気づき、ホットしたのは 2013 年 10 月、私が大船渡を離れる頃でした。他方、人々の生活はより個別的で具体的な厳しさに遭遇していました。住居の問題、将来に向かう生活設計の困難は、行政も含めよい支援者の支えと励ましによって、自立する道筋を見い出さなければならず、難しさと多くのチャレンジを越えなければならないことが明らかでしたから。

気仙の人々は言います。秋と春は本当に短く、冬の後には夏、続いて冬が来ると。又、地方

独得のサイクルに「40年に一度ぐらいの津波も入っているのです。そのたびに人口の1~2割がさらっていかれる」と。「廃墟のふるさとを復興させるためには一人でも多くの人的資源が必要だ。そのためには、何が何でも生き残れ。」「津波てんでんこ」という諺は津波の災害から苦勞をして立ち上がり続けた人々の骨身に徹して染み込んでいることばなのでしょう。それにしても、人々の陽気さと冗談を言い合いながら共に笑う実に愉快的な人々の姿に美しい人間をみせて頂き、人々と神への感謝が溢れるばかりの体験でした。

「すべての人を救われる主」がともに生きて下さると信じ、「どの人にも希望が、絶えることのない希望があるように」と願い2013年10月に大船渡を後にしました。

「忘れたくない！わすれない！！」ことを心に刻み、大船渡教会の信徒のかたの祈りと体験（公表されています）の一部を紹介させていただきます。気仙語ですがよろしく。

#### 60代の女性の方

“おらア いのち助けてやって ありがとうござりあした  
んだども氣付けた空っぽのいのち  
これからなじよすればいいんだべねんす  
砂浜に置かれたありっこのようでがんす  
右も左も 東も西もなにもわがんねア  
親戚ア よったり死にアした  
おら なじよにすればいいんだべ  
教えてけらっせん 息吐ぐたびに 助けてけらっせん 助けてけらっせんて  
声もねア声が鼻がら出て行く  
神様ア おらになにしろって語ってやるんだべ  
わがんねア わがんねア  
まっとぎっちり 側にくつついででけらっせん  
ぎっちりくつついで 教えてけらっせん  
わらしに語るように 教えてけらっせん  
せっかぐもれア申した命だもの  
大事にすっから 教えてけらっせん 大事にすっから 教えてけらっせん

ある若い方は「“神の神殿が壊れた。。” と思いました。震災の二日後、恐ろしいような静けさの中、津波のおかげで真っ黒になった人影のまばらな町をあるいて。。“社会の営みとは神の神殿を築いていることだと、そのとき思いました。。数日後、町全体が津波にさらわれた地域(陸前高田市)を訪れました。涙が静かにほほをながれました。自然は大きくはかり知れない力をもっています。そのことをこれまで以上に感じました。“ゼロからの出発” と思いました。その時“わたしが、ここにいる” “わたしが、ともにいる” “わたしが、ともにいるから” と、わたしは語りかけられました。天のお父さまも悲しかったのです。私は、“天のお父さまと一緒にがんばる”とおもいました。。本当の自立とは、神の存在に気付き、神さまとともに歩くこととおもいます。」と結ばれました(この若い方は大学を終え、東京で就

職し働いていました。この災害で家族を探しに戻り、働く場に戻るのではなく故郷のために働く選択をしました)。

漁業に関係する年配の男性と女性の方々の体験を纏めるならば、「知らない御方の恵みに与って今日まで生かして頂き、あん時全部、父、子や夫、母、娘や妻までとられ、全部返しました。また、全部を下さるだろう！」と。

だれもが、貴い体験を宝にすることができ、希望をもって生きられるようにと祈る毎日です。

## あさひの田んぼと大豆畑の様子。



あさひ福祉作業所 指導員 牧本拓也

初めまして。5月より指導員をさせていただいております牧本です。自然農を勉強しながらあさひで働いています。よろしくおねがいします。今年の田んぼと大豆畑の様子を報告いたします。



田んぼの様子です。

左の写真二枚はうるち米を植えた二ヶ所の写真です。

田植えが周りの田んぼより遅かったのもその分背が低いですが、稲刈りに向けてどんどん成長していくでしょう。



こちらはもち米の田んぼ。

ワークキャンプの方達に手植えを手伝ってもらったのですが、まっすぐ植えなければいけないところ、イネの列がぐにゃぐにゃになってまるで迷路のようです。写真の奥のほうが面白いことになっています。

除草作業をしていたらいつの間にか隣の列を歩いていたたり、



突然イネが植わっていないひらけた場所に出ることもあります。

まっすぐ植えないと稲刈り時に機械が使えないので、作業の前にきちんと説明すべきでした。次回への反省点です。

今年は例年と比べてヒエが少ない代わりに雑草（恐らくコナギ）が多いようで、水面を覆うように発生していました。

これは大豆畑の写真です。

こちらにも種まき時にまっすぐまけなかったので機械が入らず、除草作業はクワと刈り払い機と素手でを行っています。

こちらにもワークキャンプの時に雑草抜きを手伝ってもらい、大分きれいになりました。雑草も繁っていますが、それ以上に大豆は元気に育っているので一安心です。



報告は以上です。

## 市民100人がつくるミュージカル

“鯨波の声”をあさひのメンバー全員で観劇しました！

圧倒的な迫力に感激しました！？



今回は、スタッフの一人中山が出演するとあって、代表の島の一声で作業所のことも調整していただき、利用者の皆様と、参加できるスタッフ及び関係者全員で、昼公演を楽しんでまいりました。会場では利用者（車椅子利用者含む）の便宜を図っていただき、特別席を確保していただいた事、実行委員や会場係の方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

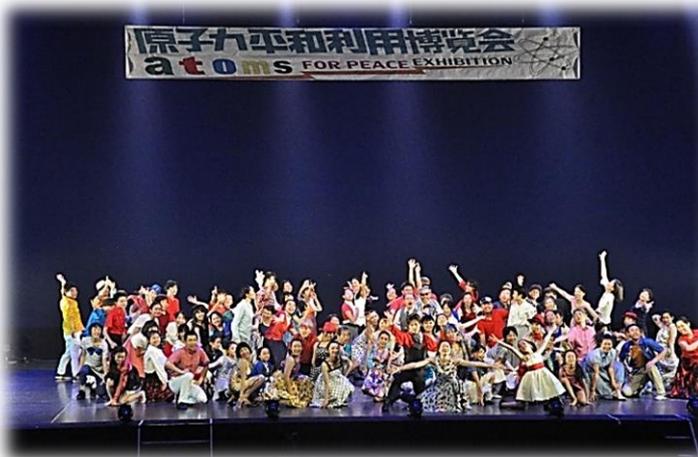
さてさて、物語に出てくる“第五福竜丸は+++++  
1954年3月1日午前6時45分、マーシャル諸島のビキニ環礁で米国により水爆実験が行われていた。それより約160kmの公海上で操業中の1艘の船があった。  
Lucky Dragonとは、この実験に遭遇し、帰還することによって核の実態を世に知らしめた第五福竜丸を、そのまま英訳したものである。+++++

まさに、核開発における歴史を再認識できるよい機会となりました。

会場には、元第五福竜丸乗組員 大石又七（81歳）様もご来場されており、満席の中大いに盛り上がった昼公演でした。



昼公演直後の記念写真



大石又七様作



中山昇様作

## ぶーこっこ広場基金・協賛のお願い

今私たちは、北杜市高根町の”あさひ福祉作業所”の地にて「ぶーこっこ広場」をつくろうと準備にとりかかっています。

この広場は、あさひの人々が地域の皆さんや、あさひを応援して下さる人、また、色々な思い、時には悩みをかかえている人々と交流することのできる「場」にしようと考え、行動し、今産ぶ声を上げようとしています。

ここで、みなさんにお願ひがあります。

広場の予定地には雑木がたくさん生えています。

この木はチェーンソーで大部切り倒したのですが、根っこがその数だけ残っています。これを掘り返して取り除いていかなければならないのですが、残念ながらわれわれの人手ではとても出来るものではありません。これにはどうしても油圧ショベルカー（いわゆる ユンボ）が必要です。

また、このユンボは切り株を掘り起こす役目を終えた後からは、あさひの仕事を色々引き受けてくれる大事な助っ人になります。

たとえば、農場から出る鶏糞、材木チップ、食事を作る際出る野菜くず、そんなものが堆肥に変わっていく作業をユンボが担当してくれます。

ユンボがいれば地域の人から食品残さを持ってきてもらい、このユンボで堆肥作りをし、その堆肥をまた地域の人々が利用して野菜や花を作っていくことが出来ます。

そんな循環の重要な役目を、このユンボ君は果たしてもくれます。

私たちスタッフも必要なお金を都合していくつもりですが、高額なので（中古で150万円程度）みなさんのご協賛をいただきたく、お願い申し上げます。

ご賛同いただける方のために、下記のように記しておきます。

**賛同金額 2,000円（1口）**

**振込先 ぶーこっこ広場基金 00250-7- 102885 郵便振替口座**

**〇二九(ゼロニキュウ)店 (029) 当座 0102885 他金融機関からの振込用口座**

また、自分も広場作りに加わってみたい人大歓迎です。是非ご連絡ください。

発起人 岡本 隆光



ぶーこっこ広場整地中〜♪

トリナ・ソーラー・ジャパン株式会社様より、  
ソーラーパネルがあさひ福祉作業所に寄贈されました。

平成27年7月3日、あさひ福祉作業所・新倉庫内にて小雨降る中、ソーラーパネル贈呈式が執り行なわれました。これは、GreenTによって設置工事一式もご寄付されることになっており、合計54kwの発電が213枚のソーラーパネルにより可能となるということです。これにより、グループホーム“あさひテレサホーム”の年間の電気代全てを賄える事が可能となり、ここで生活する利用者さんの今後の生活に対する経済的不安が少し解消されることになりました。

改めてこの紙面をお借りして関係者の皆様方に御礼いたします。ありがとうございました。

感謝。

## 退職及び新任スタッフのご紹介

保坂 武侍 2015年5月8日 あさひ福祉作業所退職  
本業の登山ガイドに力を注ぐことに！

中森 翠 2015年5月28日 あさひテレサホーム退職  
将来の夢に向けて新たな一歩を踏み出しました。

遠藤 栄一 あさひ福祉作業所 指導員より引き売りスタッフに異動。

田辺 <sup>ゆきこ</sup> 征子 新任 2015年6月3日 あさひテレサホームスタッフ

6月からホームの掃除と昼食のお世話をさせていただく事となりました。島さん始め寮生、スタッフ、ボランティアの方々のやさしさに囲まれ楽しく過ごさせていただいています。皆が健康で仲良く楽しく過せる日々でありますように！！御縁をいただいで感謝致します。



牧本 拓也 新任 2015年 5月8日 あさひ福祉作業所  
引き売りスタッフを経て指導員に



中島 繁子 新任 2015年 2月6日 あさひ福祉作業所  
引き売りスタッフに



次回のあさひ交流会は： ◎日時 平成27年12月12日（土）

（もちつき大会）

午前10時～午後2時

特定非営利活動法人あさひ

あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

<http://www.asahi-teresa.com>

TEL 0551-47-3950 FAX 0551-47-4414

[asahi-fukushi@cd.wakwak.com](mailto:asahi-fukushi@cd.wakwak.com)

賛助会費・寄付金等 ★郵便局振込★ 00220-1- 98254

編集者：中山 正博